

散在

不知火麗

ある故郷を越えて冬の山に囲まれて
或いは切り立つ断崖のすぐそばに身を据えながら
単に孤独を望みながら
ずつと意識が失くなるまで
なにもかもが見えなくなるまで

わたしの
わたしの
叫ぶ声も持てぬほど
追いつめられたものとして

わたしの
わたしの
白い泡が
深い藍の中に沈む

わたしの
わたしの
春
もはや望むことなく来ることなく

わたしの
わたしの
もう誰も私を見ることができない
誰も見ようとしな

わたしの
わたしの
見えるだろうか
すべてが一瞬のうちに滅び去るのを

わたしの
わたしの
逃げていったのはワタシ
追いかけてくるのは空

NPO法人 特別臨時創刊号

京都中也倶楽部たより

2008年1月発行



中原中也生誕100年にあたる昨年の8月、京都において数人の有志で起ち上げた『京都中也倶楽部』。10月にホームページをオープンし、11月に発足記念として「あの頃、中也のいた京都と食文化」を行い、12月には『京都味わい物語』と合同主催で「あなただけに教える中也のいた京都と食文化」を行い、12月25日にNPO設立を行いました。お世話になりました皆様に感謝の気持ちをこめ、イベントの報告を兼ねた臨時創刊号を発行致します。まだまだよちよち歩きの会ですが、これからもどうかよろしくお願い致します。

NPO法人京都中也倶楽部では、年に一回発行される会報に掲載する個人会員の方の自作の詩(自由詩及び短歌短歌)を募集しています。随時募集していますが、該年の掲載は6月末到着分までに限ります。なお、誠に勝手ながら、応募者多数の場合は選考させていただきますので、よろしくお願い致します。

会員募集

NPO法人 京都中也倶楽部では、会員を募集しています。入会金はいづれも不要です。なお、入会時期にかかわらず、四月から翌三月が会期ですので、ご了承下さい。

■個人会員 年会費 三千元
(会誌への投稿・交流会への参加特典等があります)

■団体会員 年会費 一口五千元で二口以上
(会誌への広告やHPでのバナー等特典があります)

※入会ご希望の方はホームページから申込書をダウンロードするか、下記までお問い合わせ下さい。

会報(会誌)

この会報は、『NPO法人 京都中也倶楽部』が年一回の予定で発行する会員のための冊子です。メールを登録されていない会員の方、及びご希望された会員の方には無料で一部(法人会員の方には一口につき一冊)お送りしていますが、会員以外の方及び規定以上ご希望の方は、一部百円送料八十円(何冊でも)にてお送りします。また、ホームページからはどなたでも自由にPDFがダウンロードできます。なお、この号にしましては、次号が出るまで、送料分の八十円切手を同封してお申し込み頂ければ無料でお送り致します。

イベント報告

二〇〇七年一月二日 「京都御所 散策」

公開されている京都御所を京都中也倶楽部の監事である中川さんに案内して頂きながら散策しました。京都を深く愛している中川さんの案内は格別です。普段何気なく歩いている京都御所も、それぞれのいわれなどを知りより感慨深く味わいました。大正時代の建物などもあり、中也が散策したのかな...と思いを馳せながら、まだ紅葉には早い御所を歩き、そのあと喫茶店でコーヒーを飲みながら、中也の話を楽しみました。



手の出演のみOKの中川さん

二〇〇七年一月二日〜五日 「あの頃、中也のいた京都展」

大阪府立大学の中村治先生、阿弥陀寺の普天様、河原町今出川の米田様、五条坂の藤平陶芸様のお力を借りて、三日間、中原中也のいた大正時代の京都をテーマにした展示を行いました。主な展示物としては、大正末期の京都の地図、大正末期前後の写真(ファンの方お馴染みの修学旅行に行つた際の中也の記念写真等)及び昭和初期の陶器や大正時代の門幕・百万遍・ご開帳です。この展示会は、毎年バージョンアツプしながら続けて行く予定です。会場の事務所が同志社大学に近いことから、就職活動中の学生さんもふらりと立ち寄って下さいました。



会場の様子

二〇〇七年一月二五日 「紅葉散策その一」

「あの頃、中也のいた京都展」に二五日来られた方で、時間のあつた方と昼食を採り、少し歩いたところにある二条城に紅葉を見に行きました。紅葉はちょうど見頃で、紅葉というイメージのなかつた二条城の木々もかなり綺麗に色づいていました。静岡から来たOさんは、元高校の国語の先生。「海にゐるのは、あれは人魚ではないのです。海にゐるのは、あれは、浪ばかり。」とそらんじてらっしゃいました。可愛いお子さんと一緒に参加して下さいました。母さんとお母様方もいらつしやう、今はお母さんに連れられて来ているけれども、いつか是非自身で参加しようとして来てくれるようなイベントになればいいな、と思っています。



二〇〇七年二月八日 午前の部 「中原中也と京都での出会い」

京都大学名誉教授の宇佐美先生が京都府庁旧館の正庁で中原中也の京都での出会いの中心にお



次々と資料を提示して下さる宇佐美先生



明治時代の建築・京都府庁旧館

特定非営利活動法人 京都中也倶楽部

<http://www.chuya.org>



〒602-8233
京都市上京区葎屋町通中立売上る
福大明神町128 西陣町家スタジオ内
FAX/075-431-2250
TEL/075-801-3025
E-mail/info@chuya.org

大正末期前後の建築物(もしかしたら中也も知っていたかも?!)である西陣町家スタジオの一室で活動しています。新聞の抜き刷りや本を置いています。茶話会等でご覧頂けますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



話をして下さいました。高橋新吉との出会い、長谷川泰子との出会い、富永太郎との出会い。わずか二年少々間に七箇所もある下宿先。そして放蕩三昧の数々。宇佐美先生の講演を聴いて、改めて京都時代の中也の青春の切なさ、詩人としての礎を実感。講演が終わったあとも興奮冷めやらぬ方が宇佐美先生に質問をされていました。

二〇〇七年二月八日 午後の部
「中原中也の詩の朗読とアコーディオン演奏」

「今まで中原中也は名前くらいしか知らなかったのですが、午前中宇佐美先生の講演を聴いて、やたら大正一三年というのが出て驚きました」と後日語ったアコーディオン奏者の田中益五郎さんは奇しくも大正一三年生まれ。小泉じゅん子さんの中也の詩の朗読とシャysonの演奏で綴られた午後のおひととき。司会進行の北さんは、小泉さんのお弟子さんで、三人のエンターティナーが中也をあまり知らずに参加した人にも楽しんでもらえたようです。



↑右は朗読の小泉さん、左は司会の北さん



最後の曲は『詩人の魂』。「詩人たちが亡くなった後も、ずっと、ずっと、ずっと、長い長い間、詩人たちの歌「ダンディー」な田中さん

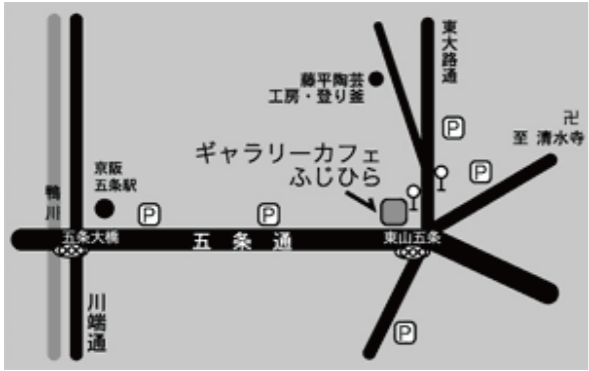
はまだ街に流れている。彼らの軽やかな魂と歌は、人の心を楽しくも悲しくもできる。：中原中也という詩人がいつまでも人々の心に残るであろうことを予測して、演奏会が締めくくられました。

二〇〇七年二月九日
「ベートーベンと中原中也」

二〇〇七年のイベントの締めくくりは、五条坂にある「ギャラリーカフェふじひら」でのコンサート＆茶話会。中原中也が好きだったベートーベンの『月光』を聴いた後、中也の詩「お道化うた」の紹介と、その詩の所以となった尋常小学校の教科書を紹介しながら、茶話会が行われました。茶話会には当会の理事であり、音楽の好きな山口先生も参加。観光客の方も数人いらっしやって、にぎやかに行われました。ギャラリーカフェふじひらでは、毎月マンスリーコンサートが開かれますが、今度の六月は中也の「六月の雨」に詩をついた現代音楽のコンサートが決定しました。詳細はまた決まり次第ホームページ等でお知らせさせていただきます。お気軽に合わせは、お問い合わせは、〇七五―五六―一三〇二四まで。



秋庭佳代子さんのピアノ演奏



コンサートが開かれますが、今度の六月は中也の「六月の雨」に詩をついた現代音楽のコンサートが決定しました。詳細はまた決まり次第ホームページ等でお知らせさせていただきます。お気軽に合わせは、お問い合わせは、〇七五―五六―一三〇二四まで。

二〇〇七年二月八日
「紅葉散策 その2」

府庁で午後の部に参加して頂いた方の中から、有志を募って秋の京都を満喫する第二弾を決行しました。参加者の中で六人ほど、夕方大阪に行かないといけないグループがあり、駆け足で真如堂界隈を散策。この界隈は、比較的遅くまで楽しめるスポットですが、さすがに少し遅かったのか、葉が結構落ちてました。ただそれが絨毯のように広がっていて、とても綺麗でした。



まだまだ綺麗な紅葉スポット

二〇〇七年二月九日
「大正時代の京都の食文化」と「大正浪漫ランチ」



中村先生の講演の様子

八日のイベントのテーマは中原中也でしたが、九日のテーマは京都の食文化。大阪府立大学教授の中村先生にこの百年の京都の食文化を古い写真やスライドで見せて頂きながら講演して頂きました。大正浪漫ランチを頂きました。場所は

突撃インタビュー

京都時代、中原中也のいた下宿先を訪ねて

「当時中也が下宿していた二階は、僕の子どもの頃の部屋でした。」中川さんの息子さんはそう言いながら、少し上を向いた。子どもの頃の自分を振り返っているのだろうか。「この部屋にいて、自然と詩がわき出るとかそういうことはなかったのですか。」と訊くと、「ないない」という即座の答え。やけに上まである本棚のせいだろうか、少し天井が低い印象を受けた。

「中也は背が低くて、多分一五〇センチあるかなにかくらいでした。」昔、吉田熙生先生の講演会で聴いた言葉がふと頭をよぎる。あふれかえらばかりの本棚の本は、記録されている中也の読書歴とはいささか違い、やや実用的な傾向があるようだ。何でも、昔は五山の送り火が見えていたという窓であったが、今、窓から顔を出しても近隣の建物しか見えず、おそらく送り火は見えずにない。

ここで中也は一体どのような詩を作ってきたのだろう。ウハキはハミガキ、だろうか。或いは詩作より泰子に夢中だったのだろうか。宇佐美先生講演では、変装して酒を飲みに行っていたということだったが、ここでもお酒を飲んだのだから、等と考えながら、何故か『臨終』の一節が頭の中を駆けめぐる。



中也のいた下宿先の現在

「町々はさやぎてありぬ／子等の声もつれてありぬ／しかはあれ この魂はいかにとなるか？／うすらぎて 空 となるか？」

円山公園の上の方にある「お宿 吉水」。最近始めたカフェで、元々は大正時代のオムライスを再現する予定でしたが、人数が増えたため、チキンライスに変更。その他、温野菜のサラダと珈琲、ぜんざい等、いずれも女将さんのこだわりの素材で作られたものです。ちなみにオムライスは大正時代に大阪にある『北極星』というお店が胃の弱い常連さんのために先代の料理長（今の北橋総料理長のお父様）が工夫し、命名したものです。大正時代のレシピもバッチリ聞ききましたので、いつか大正時代をテーマに、再現して頂くイベントを考えています。

古い写真を探しています

『あのころ京都の暮らし』の著書でお馴染みの中村治先生が、昭和三十年代まで古い写真を探しています。

「これはいつの写真だろうか」と疑問に思われる写真も鑑定してもらえるかも？ご興味のある方は、末尾の当団体の連絡先にひとまずご連絡下さい。追って中村先生にお知らせします。

二〇〇七年二月九日
「紅葉散策 その3」

岩倉で生まれ育った中村先生が、地元の人あまり知らない紅葉のスポットを案内して下さいました。既に紅葉の見頃は過ぎてましたが、歴史を学びながらの散策。場所は二〇〇八年にも散策予定ですので、それまでのお楽しみにして下さい。

二〇〇八年

四月 春の京都御所散策
八月 花見散策
一〇月 懇親会
十一月 あの日、中也のいた京都展二〇〇八 紅葉散策

京都中也倶楽部沿革

二〇〇七年

八月 発足
九月 NPO申請
一二月 NPO認証、NPO設立

京都中也倶楽部のこれからの活動

〈ホームページ〉

中也にまつわる投稿を受け付けています。どんなでも閲覧可能ですが、投稿は会員に限定させていただきます。詳細はホームページをご参照下さい。

〈メルマガジ〉

まぐまぐで「中也の本棚」を発行します。中原中也の読書メモから、毎月一冊ずつその本の概要をご紹介します。読者登録はホームページから。

〈茶話会〉

事務所のある西陣の町家で二〇〇八年二月から二〇〇九年三月までの偶数月の第三日曜に茶話会をします。時間は午後一時から二時です。会費は五百円の予定です、第一回は二月十七日（日）です。詳細は決まり次第、ホームページにてお知らせします。